



町田第三小学校 学校教育目標

・元気な子 ・よく考える子 ・思いやりのある子

1 学校教育目標

○元気な子

- ・健康的な生活を送り、意欲的に運動に取り組もうとする子供
- ・日常的な運動を通して体力向上を図り、強くたくましい心や体をもつ子供
- ・適切な判断力を身に付け、ケガや事故につながりにくい動きを考えて行動する子供

○よく考える子

- ・課題に対して粘り強く取り組み、自分の考えをすすんで表現できる子供
- ・既存の考えや周囲の意見にとらわれず、自分の考えに自信をもてる子供
- ・想像力や発想力豊かに考え、新たな見方や考え方にすすんでチャレンジする子供

○思いやりのある子

- ・自分のことも仲間のことも大切にして、周囲を温かく思いやる子供
- ・困っている仲間気付いたらすすんで力になろうと行動できる子供
- ・仲間と互いに協力し合って活動し、すすんで良好な関係を築こうとする子供

2 目指す児童像

目標をもって、意欲的に行動する児童

- ・目標を明確にもち、生き生きと学校生活を送る児童
- ・目標に向かってひたむきに努力する児童
- ・粘り強くあきらめずに努力を継続できる児童

3 目指す学校像

毎日わくわくした気持ちで通いたくなる学校

～保護者の予想や期待を超える学校運営～

《児童一人一人にとって》

- ・ 友達や先生と会うのを楽しみに思える学校、何か楽しいことが待っていると思える学校
- ・ 児童に対する教職員の愛情、熱意、誠実さが伝わる学校
- ・ 仲間と学び合う楽しさや喜びを感じることができ、自己肯定感を高められる学校
- ・ 一人一人のよさや違いが認められ、安心して自己表現、自己実現ができる学校

《保護者、地域にとって》

- ・ 教職員を信頼して子供を預け、安心して指導を任せられる学校
- ・ 学校からの発信や授業参観等を通して、子供の成長を実感できる学校
- ・ 日々の教育活動から、高い満足度を得られる学校

《教職員にとって》

- ・ 学校の課題に対して皆で問題意識を共有し、前向きに協力して取り組む学校
- ・ 研究研修を通して互いに切磋琢磨し合い、皆で指導力の向上を目指す学校
- ・ 一年を通して良好な健康状態を保ち、皆が毎日の職務に生き生きと意欲的に取り組む学校

4 目指す教職員像

児童とともに成長し続ける教職員

- ・ 児童のために誠実で思いやりのある対応を常に意識しながら行動する教職員
- ・ 仲間の課題を自分事として考え、課題解決のためにすすんで動く教職員
- ・ 一人一人が町三小の児童全員を育てていく意識をもつ教職員集団
- ・ 常に向上心を持ち、積極的に研修に励みキャリアアップを図る教職員
- ・ 保護者や地域との連携・協働を大切に考え行動する教職員
- ・ 心身の健康を保ち、やりがいを感じながら自身の職責を全うする教職員

5 学校教育目標達成に向けた取組と具体的な方策

(1) 生きる力、確かな学力の育成に向けた組織的取組の推進

《学力向上》

- ・ 「やる時はやる」「頑張る時はしっかりと集中する」意識を育て、学習規律を学校全体で作り上げる。
- ・ 家庭学習の習慣を各学級で確実に身に付けさせる。
- ・ 読書や読み聞かせの時間を大切にし、思考力や想像力、表現力を伸ばすとともに本好きな児童を増やす。
- ・ 相手の話をよく聞き、互いの考えを尊重し合う学級づくりを行う。多様な考えを認め合い、学びを深める交流活動のよさを十分に味わわせる。
- ・ 継続的なノート指導を通して、各教科の学習で丁寧に書く意識を育てる。自分の名前を書くことについては特に丁寧に書く意識をもたせる。

《情報教育の推進》

- ・ 全学年で情報モラル教育を実施し、情報機器を適切に扱うためのモラルを確実に身に付ける。
- ・ 家庭と連携し「SNS町三ルール」を児童・保護者に十分に浸透させる。
- ・ 各学年の発達段階に応じて情報リテラシー能力を高め、特に情報の正確性を見極める力を養う。

《外国語教育 外国語活動の推進》

- ・ 自身が主（T1）となって指導できる授業力を全担任が身に付ける。
- ・ 学校全体で英語の授業力を向上させるために教材や指導案を共有化し、質の高い授業をどの学級でも実践できるようにする。楽しくわかりやすい英語の授業の実践を通して、英語好きな児童を増やす。
- ・ 外国人との実際の交流学习を通して国際理解教育を推進するとともに、英会話の実践力やコミュニケーション能力および英語学習に対する意欲を高める。

《学校・地域・家庭の連携》

- ・ 地域やまちとも連携し、夏季学習教室、放課後算数教室、漢字検定等の活動を通して児童の学力、学習意欲の向上に役立てる。特に2月に行う漢字検定は、町三小の恒例行事として積極的に児童に参加を働きかけ、漢字学習に対する学習意欲を学校全体で盛り上げる。
- ・ 読み聞かせを通して地域の方との交流を深め、読書好きな児童を増やす。
- ・ 授業で学校図書館を積極的に活用し、司書教諭や図書支援員が中心となって読書の楽しさを啓発する。

（2） 豊かな人間性・思いやりのある児童の育成を目指した学校・家庭・地域の連携・協働の促進

《道徳教育・人権尊重》

- ・ 「教え込む道徳」「一つの答えに導く道徳」ではなく、「考える道徳」「議論する道徳」へと授業改善を図る。
- ・ 意見交流を活発に行って互いの考えを尊重し合い、多様な考え方の価値に気付こうとする態度を育てる。
- ・ 挨拶、返事、言葉遣いの指導を全校で取り組む。教員が率先垂範して手本を示す。また高学年児童から下級生に波及させていくことで、全校的に習慣化させていく。
- ・ いじめが疑われる場合は、いじめ対応チーム・特別支援委員会・主任会・生活指導夕会による情報共有を迅速に行い、問題行動を早急に収束させる。
- ・ 困難な状況に遭遇した時でも、簡単に投げ出したり諦めたりせず、粘り強く問題解決していこうとする力（レジリエンス）を育成する。

《キャリア教育・体験活動》

- ・ 地域の人材を有効に活用し、社会で活躍する様々な立場の人達と直接交流する活動や体験学習の機会を積極的に取り入れる。
- ・ 自分のよさや可能性を見付け自己理解を深めるとともに、色々な人と関わり合いながらたくましく生きる力を養い、社会の一員としての自覚を高める。

《規範教育》

- ・ 普段から教師が率先して範を示すような行動を児童に見せることで規範教育の基盤を築く。
- ・ 保護者会や道徳授業地区公開講座の機会を利用して、保護者や地域の方々に対して児童の規範意識について広く意見交流する。

《特別支援教育の推進、サポートルーム等 個に応じた指導の充実》

- ・ 特別支援教室の目的や普段の授業の様子を児童や保護者に積極的に知らせ、特別支援教育に対する理解を啓発する。
- ・ サポートルーム教員だけでなく、すべての教職員が特別支援指導に関する知識を身に付けられるよう、年間を通して研修に励む。

《地域の中で育てる》

- ・ 学校運営協議会や青少年健全育成、いなほ会と連携し、児童を地域の中で育てる活動を積極的に推進する。

- ・ 地域連携担当教員が中心となり、いなほ会との協力体制を築く。各地域行事に積極的に参加するよう児童に促すとともに、教職員自らもできる限りの範囲で参加する。
- ・ 放課後子ども教室「まちとも」を児童の放課後の居場所づくりとして、関係機関との連携を図りながら一層の推進を図る。
- ・ 年一回の「まちとも」主催の漢字検定に向けて、学校でも積極的に機運を盛り上げ、児童の漢字学習に対する意欲を高める。

(3) 体力向上に向けた取組の推進

～心身の成長・健康の保持増進、生涯スポーツに親しむ素地づくり～

《体力向上推進プラン・一校一取組・健康な体づくり》

- ・ 休み時間の外遊びを積極的に推進し、運動好きな児童を増やすとともに日常的に児童の体力向上を図る。
- ・ 児童が楽しみながら取り組める長縄や持久走の体育的活動を工夫し、全校体制での一校一取組を定着させ、運動の習慣化を図る。
- ・ 児童がめあてを明確にもって積極的に体力向上を図れるよう、長縄や持久走の校内記録会を企画する。
- ・ 日常のうがい、手洗い、換気の励行を習慣化し、感染症対策の徹底を図る。また病気にかかりにくい丈夫な体づくりをするための健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはんなど）についての理解を広めるために、学校保健委員会や保健だよりなどで家庭に積極的に啓発する。
- ・ 食に関する正しい知識や望ましい食習慣の理解を深め、給食の時間を中心に食育を推進する。給食献立に地域の食材を用いて生産者への感謝の気持ちを育てるとともに、日本の伝統行事食や世界各国の料理などを取り入れることで食への関心をもたせる。

(4) 児童の安心安全に向けた取組の推進

- ・ 毎月の安全指導を通して交通事故について意識啓発を十分に図り、交通事故ゼロを継続させる。
- ・ 避難訓練を通して防災意識の向上に努める。訓練後の講話では防災・減災に対する意識付けを図り、災害がいつ発生しても冷静に行動できる判断力、行動力を身に付けさせる。
- ・ 日頃から安全点検、危険箇所点検を確実にを行い、問題があれば早急に対応し安全の確保に努める。
- ・ 日常の整理整頓（荷物は廊下のフックに掛ける、物を落としておかない等）を児童、教員共に習慣化する。
- ・ 教育公務員としての服務規律を確実に遵守できるよう、定期的に服務研修を行う。
- ・ スクールサポートスタッフやボランティアスタッフの活用等をより一層促進し、これまでの働き方を見直し仕事の効率化や分業化を推進する。
- ・ 心身の健康を優先した働き方を実践し、児童の前では万全の体調で臨めるよう自己管理を徹底する。